

§ 1. 道路構造物長寿命化修繕計画の背景と目的

1-1 背景と目的

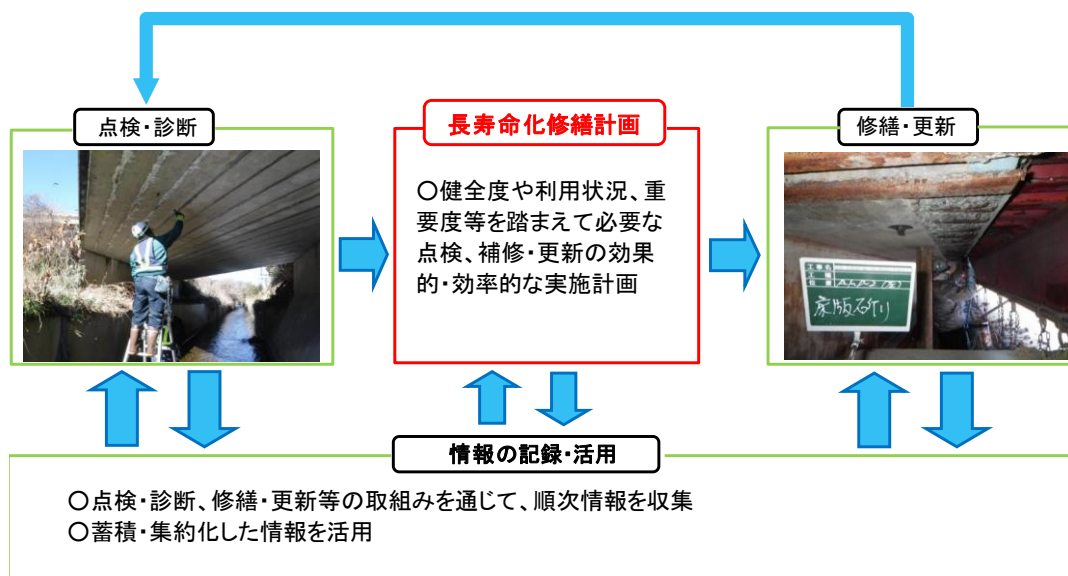
近年、多くの道路構造物が一斉に老朽化の時期を迎え、補修・補強対策や更新に対する予算措置等の財政確保の面での問題が健在化している。そのような中、いわき市では全管理橋梁のうち 864 橋については平成 26 年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、従来の対症的な維持管理から予防保全的な維持管理への施策の転換を図り、管理橋梁の長寿命化と維持管理コストの縮減、維持管理予算の平準化を着実に遂行してきた。この橋梁長寿命化修繕計画は、遠望目視による点検結果を基にしており、平成 25 年の道路法改正等を受けた後の近接目視を基本とした点検手法によるものではないことから、いわき市では平成 26 年 7 月以降から実施してきた橋梁・トンネル等を含む道路ストックの近接目視による点検結果を基にした包括的な長寿命化修繕計画を新たに策定する。

近接目視による点検結果を基に、いわき市が管理する道路構造物（橋梁、トンネル、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識等）について、健全性の確保、維持管理コストの縮減、事業予算の平準化を基軸とした効率的・効果的な「いわき市橋梁長寿命化修繕計画」を策定することを目的とし、この長寿命化修繕計画を運用することによって、いわき市が管理する道路交通ネットワークの安全性・機能性・信頼性に対する持続的な確保にも期待される。

1-2 基本方針

いわき市が目指す「道路構造物長寿命化修繕計画」の基本方針は、点検・診断、修繕・更新、情報の記録・活用といったメンテナンスサイクルを構築することです。

今回、点検・診断の結果より、長寿命化修繕計画を策定し、計画を基に、修繕・診断、そして次回の点検・診断を行います。このなかで、順次情報を収集、蓄積・収集化した情報を活用といった、情報の記録・活用を行っていくもので、このサイクルが「メンテナンスサイクル」となります。



また、各対象施設の点検・診断、修繕・更新においては、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログ（案）に掲載されている新技術等を参考に、費用の削減や業務の効率化を図るため、従来工法との比較・検討を実施し、新技術等の活用効果が見込まれる場合は、積極的に採用します。

1-3 対象施設

策定する長寿命化修繕計画の対象施設は、橋梁 1,842 橋、トンネル 9 箇所、大型カルバート 4 箇所、横断歩道橋 8 橋、門型標識等 14 基 とする。
橋梁については、木橋・石橋を除いた橋梁を対象とします。

表 策定対象施設数一覧

施設名称	施設数
橋 梁	1,842 橋
ト ン ネ ル	9 箇所
大型カルバート	4 箇所
横断歩道橋	8 橋
門型標識等	14 基



次のセクションより、施設毎に整理した修繕計画を示す。